

分科会の記録 第3分科会 教育環境整備に関する課題

【提言1 研究主題】

「地域と学校をつなぎ開かれた学校づくりを目指して」

～教育環境の充実のため地域の力を生かすための副校長・教頭としての
関わり方～

【提言者】 鳥栖基山教頭会 鳥栖市立鳥栖北小学校 梶原 康裕

【協議の柱】

地域や外部機関との架け橋となる学校の窓口としての副校長・教頭には、どのような資質・能力が必要なのか。

【協議内容】

- ・中学校は校区が広いので、民生委員会への出席も3、4か所あり大変である。異動の際には、前任者からの細かな伝達を受け、コミュニケーションを取っていく。
- ・危険箇所の整備などを行政に訴えると時間が掛かり、うまく進まないことも大いにあるが、区長や議員などと関係を築いておくことで事が進み、スムーズな業務の遂行につながっていく。
- ・地域からの要望等への対応が全て教頭とならないように、職員へも声を掛け、地域との窓口となる人材を育成していく。文書等に残して引継ぎしやすくし、学年（担任）へ任せることで、学校全体をチームとして運営することができる。
- ・地域と連携した行事や活動は大切であるが、慣例ではなく毎年見直しをする。地域連携を図りながらも行事精選していくために、普段から実状を地域と話し合うなど、理解を求めやすい関係づくりをしていく。
- ・担任にも地域とのつながりや活動の意識を高めるために、教育課程の中に地域連携を位置づける。年度当初に、職員全体で確認することで年間の見通しとなり、担任自身が主体的に関わろうとする意識を高めることにつながる。
- ・コミュニティスクールのよさは次のように考える。
 - ① 地域と連携した活動については、地域主導で計画・準備・運営をしている。慣れるまでは、細かな打合せや学校側からの提案等も多くなるが、地域を育てることで徐々に地域主体となる。（地域：公民館やまちづくり推進センター等）
 - ② 職員からの意見や要望を地域に伝え次年度に反映させていくことで、職員も一層前向きに参加するようになった。「やらされ感」がなくなり、地域との関わりを楽しみ、主体的に関わろうとする姿が見られるようになった。

【指導助言】 東部教育事務所 指導主任 八島 重綱 氏

- ・副校長・教頭には、地域との連絡調整力、傾聴力、柔軟性や計画力、地域・職員・子供をつなげる力が必要である。
- ・副校長・教頭が事務処理に集中できる時間を確保することも大切である。働き方に余裕があることで、より地域とのつながりを意識して動き、地域の窓口としての役割を十分に果たすことができる。